

まいこの活動

インターンシップを受け入れました

8月9月と2ヵ月間、地方議員の活動に興味のある大学生と活動を共にしました。彼女たちの人生の選択の一助になりますように。

辻立ち

駅立ち

議会報告の配布

自民党宇治市会議員団としての要望活動

ゆめりあうじのキッズスペース新設

(株)シースターの避難所グッズ贈呈式に同席

なんでもお気軽にご相談ください

市民相談行っています

予定はホームページの「まいこの動静」からご確認ください
<https://nakamura-maiko.wixsite.com/index>

分からないこと、困っていること、相談したいこと、

私におしえてください。
 あなたの声を届けていきます。
 あなたの思いをカタチにしていきます。

Facebook

「中村まいこ」で検索して、日頃の活動をチェックしてください。

LINE 公式アカウント

右側のQRコードを利用して、お友達追加してください。市政の情報発信をしています。

中村まいこ 事務所 宇治市大久保町上ノ山55-6

連絡先 TEL 070-5260-2712 FAX 0774-45-1508

お問い合わせはホームページからでも <http://nakamura-maiko.wix.com/index>

宇治市議会議員

中村まいこ 議会報告

発行/中村まいこ 宇治市大久保町上ノ山55-6 連絡先/TEL070-5260-2712

<http://nakamura-maiko.wix.com/index>

みなさまの声や思いをカタチに!

vol.21

9月定例会でもコロナ対策の補正予算が可決されました。
 小さな命を守る懇談会の方と一緒に要望した新生児への特別定額給付金や茶生産農家の方々の勉強会を経て議員団で要望した内容等が含まれていました。
 インフルエンザの流行期が懸念される中、コロナ感染拡大防止を心掛けながら市内経済の活性化に向け、みなさまの声を耳を傾けながら取り組んでまいります。

宇治市議会議員
 中村まいこ

これまで要望してきたことが実現しました。

一部を紹介します。

思いがカタチに

プレミアム率30%の「宇治のお店おうえんクーポン」を発行します。

6月議会で新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内事業者の売上回復を支援するため地域通貨を提案し、7月臨時議会で実現した「宇治のお店おうえんクーポン」が10月1日から利用できるようになりました。

販売・使用期間 2020年10月1日(木)～2021年2月14日(日)

販売額 1冊5,000円(使用額面6,500円)

購入可能冊数 1人3冊まで(先着順) 発行数 2万冊

詳しくはこちら ▶ <https://www.city.uji.kyoto.jp/site/ujinext/30276.html>



新生児応援給付金の予算可決

「京都小さな命を守る懇談会」のみなさんと要望しました令和2年4月28日以降に生まれた新生児への特別給付金10万円の支給が実現できる運びになりました。



▲小さな命 新生児給付金



▲洛天新報 2020.9.10



茶生産農家さんとの勉強会を経て、自民党市会議員団の要望が実現しました。

◀茶生産農家勉強会

令和2年 9月定例会 9月25日(金)

一般質問しました!

Q1 医療体制



質問 新型コロナウイルス感染症対策の中、インフルエンザの流行期を迎えようとしているが、どのような対応をするのか。

答 弁 高齢者等インフルエンザ予防接種の開始時期を例年より早い10月5日から実施する方向。

まいこの要望



公費負担の拡充により重症化になりやすい方の接種の促進を。

自己負担なく摂取できる非課税世帯、生活保護世帯には市政だより、ホームページだけでなく、ケースワーカーや民生委員と協力して広報に努めて頂きたい。

質問 コロナ禍で不安を抱えている妊産婦に対しオンラインなどを利用して気軽に相談できる体制の構築ができないか。

答 弁 9月からオンライン相談を開始。不安の軽減につなげていきたい。

まいこの要望



産後ケア事業の実績を見ても現場やママさんたちと現状把握に乖離がある更なる周知徹底を。

コロナの影響で外出自粛から刺激がなく、成長に大きな影響が出ていると聞いている。孤独な中での妊娠、出産、子育てなので多機関が連携して柔軟な知恵を集結するように。また、産後2週間検診に対する助成はより必要である。



Q2 教育の個別最適化



GIGAスクール構想での課題を指摘し新たな取り組みを提案しました。

国の進めているGIGAスクール構想ってなに?

1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させること。



質問 教員の指導体制はどうなっているのか。

答 弁 精通する教育を研究員に指名し具体的に指導計画を検討している。府教委とも連携し指導体制の充実に努める。

まいこの要望



先駆的な都市では教職員1人あたり50時間の校務時間削減につながっている。先進事例を参考にICT支援員を活用し、包括連携協定を締結しているソフトバンク等の協力を得ながら取り組むように。

「ポストコロナ時代を見据えた新たな取り組みについて」

質問、答弁、要望等の一部を要約したものをご紹介します。

質問 習熟度別の学習環境の整備ができるのではないか。

答 弁 AIドリルを活用した場合個々の習熟度合やクラス全体の習熟度合などがリアルタイムに把握でき個別具体的な学習計画を立てることができる。一人一人の学習定着度等に合わせた習熟度別学習環境を含め、ICT機器の活用を検討していく。

質問 病気や重度の障害のある子供たち、あるいは様々な理由で登校しづらい子どもたちの分身のように教室で勉強できる環境を整えるのに分身ロボット「Orihime」などAIロボットを取り入れては。

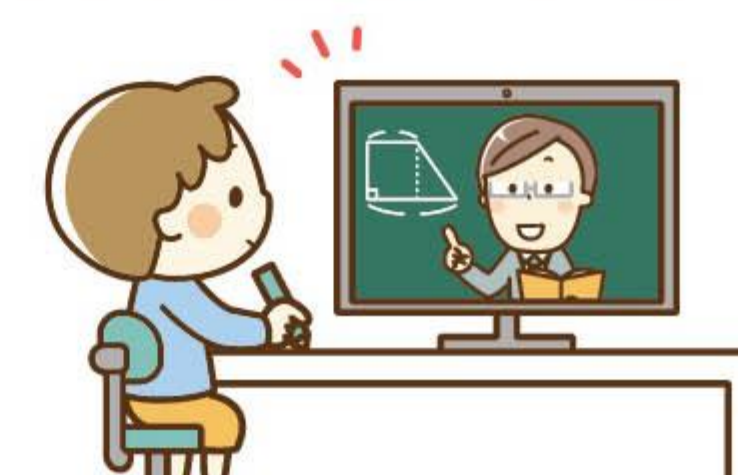


◎ 豊橋市が導入の分身ロボット「Orihime」=同市役所で

答 弁 様々な状況によって登校できない児童生徒にとってクラスメイトの状況や教室の雰囲気を感じられること等学びの機会を確保することからも有効。まずは一人一台端末を活用して学習環境の整備に努めていきたい。

質問 新型コロナウイルスの感染症対策をはじめ不登校児童生徒に対しても登校が自宅学習かを選ぶことのできる選択登校制を導入すべきではないか。

答 弁 不登校児童生徒自立支援教室やフリースクールの出席認定など個別の状況に応じた対応を行っていることから総合的に判断していく必要がある。



まいこVoice

教育の個別最適化に思い

不登校児童生徒自立支援教室の役割も十分に理解しているが、学習機会の担保という意味では不足があると言わざるを得ない。

どのような状況下であっても等しく学習できる機会を提供することが公教育の大きな役割。新たな導入には検討することが多々あると思うが、どのような状況であっても学習機会を担保しなければならないという使命感をもって検討して頂きたい。

そして、その取り組みにより多くの選択肢から子供たちが将来を選択できるような後押しを強く求めている。

